

チャバネアオカメムシの生態等

○発生の経過

年間発生回数: 1～2回

落葉下で成虫が越冬する。4月になると、越冬場所から脱出して、サクラの実などを餌にクワ、キリの実などと吸汁し、スギ・ヒノキの球果が実ると球果で産卵・増殖する。その間、餌不足になると果樹園地に飛来し、吸汁害を及ぼす。

主として日没後に飛来して樹園地内の果実の吸汁活動を行う。昼間に成虫が散見されれば、夜間は多くのカメムシが加害している可能性が高い。

○被害を受ける作物

ナシ、リンゴ、カキ、モモ、温州みかん等で果実の吸汁被害が見られる。
その他、サクラ、ヒノキ、スギ、クワ等を餌とする。

○トラップの活用

フェロモントラップの7月上旬までの累積誘殺数によって、その年のチャバネカメムシの発生量を予測することができる。

台風等による強風により、カメムシ類が山林から強制的に離脱させられたり、スギ・ヒノキの球果の脱落や倒木による餌不足により、結果的に果樹園への飛来が増加し、フェロモントラップの誘殺数が増えることがある。

フェロモントラップには、チャバネカメムシの他に、餌を求めて移動中のクサギカメムシ成虫が誘引されることがある。また、ツヤアオカメムシの誘引成分と類似していることから、ツヤアオカメムシも誘引されることがある。

フェロモントラップ調査の他、西部農業技術指導所では冬季に落葉採取によるチャバネカメムシの越冬量調査で、次年度のチャバネアオカメムシの発生量を予測している。調査結果は、広島県HP「病虫害発生予察情報」に掲載している。

○写真



チャバネアオカメムシ成虫
(体長約11mm)



フェロモントラップ設置状況
(コガネコールを使用)



カメムシ類の吸汁加害によるナシ奇形果 (収穫約3週間)



ナシ果実吸汁害部の内部
(吸汁箇所はへこみ、中がスポンジ状にな